



むと!

# おびにし わくわく通信

NO.36

2024.05.31

文責: 荒木

## 帯西イエローが活躍した「プール掃除」

昨日(30日)は、5・6年生の高学年の子供たちがプール清掃をしてくれました。1年間使わなかったプールの中央には、汚泥が溜まり、異臭を放っていました。そんな中を子供たちは、手際よく汚泥をバケツリレー形式で運び出すと、外に運び出して捨てるという作業を繰り返しました。次は水を運び入れながら、たわしでプールの壁面をゴシゴシこすったり、デッキブラシでプール床面をこすったりしていました。プール掃除について子供たちに聞くと「みんなにたくさん泳いでもらいたいので帯西グリーンと帯西イエローの気持ちで頑張っています。」「自分たちや来年も泳ぐ5年生もいるので、みんなでイエローの気持ちでしっかりと洗いたと思います。」「1年生から4年生は、これからプール掃除を体験していくと思うんですが、その人たちのお手本になれるように頑張っています。」「1年生から6年生までが、楽しく安全に泳げるようにしてほしいという、帯西イエローの気持ちで頑張っています。」「みんなが楽しく水泳の勉強ができるように、人が見えないところもきれいにしようと思います。」と答えてくれました。



今日は、帯西イエローの「働く喜びをもち、みんなのために役立つ」の心をはたらかせてみんなのためにプール掃除に尽力する5・6年生の姿がたのしく見えました。今後、各学年で行う、プール開きが楽しみです。

## ●ひこうきぐも✈ vol.29

当時の中国では、自転車の数がとてつもなく多く、道路も自動車より自転車の方が圧倒的に幅を利かせていました。その自転車は古い型の物が多く、一見丈夫そうに見えますが、結構故障も多いようです。その証拠に、町中で露店の自転車修理人をたくさん見ることができました。ゴザのような物の上に錆び付いた部品を所狭しと並べ、「本当に大丈夫かなあ?」という疑いを持ってしまいます。ところが、修理している姿を見れば、その考えもすっかり吹き飛んでしまいます。パンクしている自転車を手際よく修理するその様子はお見事!まさに職人技です。

中国を走る自転車は、その殆どが無灯火でした。夕闇が迫り、周囲が見えなくなってくると、頼りは自動車の灯りだけになってきます。自動車が通らないときは、闇の中から自転車が歩行者にスッと突っ込んでくるようでとても怖い思いをしました。歩行者にとっての道路事情も日本の横断歩道のように、信号が青に変わって渡るという安全なシステムがまだ出来上がっていないようでした。そして車が速度を落としてくれるまで道路を横断しようと考えたら、おそろくずっと待たなければならぬのではないのでしょうか。道路を渡る時ときのポイントは、①覚悟を決めて②悠然と堂々と③威厳すら見せつけて、渡らなければいけません。こう覚悟を決め込むと道路を渡ることができましたが、最も安全に渡るには、現地の人々の後を付いて渡るのが一番いいのかもしれませんが。

ある街中で、私の前をたくさんの木炭を積んで重そうな荷車を引いているおじいさんがいました。そしてその横を若者が乗った高級外車のベンツが走り去っていきました。「この国は、社会主義のはずなのに。」と深く考えさせられました。次第に経済格差が広がっていく中国の現状を目の当たりにした瞬間でした。

ある街中で、私の前をたくさんの木炭を積んで重そうな荷車を引いているおじいさんがいました。そしてその横を若者が乗った高級外車のベンツが走り去っていきました。「この国は、社会主義のはずなのに。」と深く考えさせられました。次第に経済格差が広がっていく中国の現状を目の当たりにした瞬間でした。

※「ひこうきぐも」は、あくまでも荒木がバックパッカーとして旅をした当時、約30年前の街の様子です。現在とは状況に違いがあることをご了承ください。バックナンバーは一昨年度からの累積です。



某飲料水も漢字で表す